

アフリカにおける「顧みられない熱帯病(NTD)」対策に資する多重感染症の 一括診断法の開発

背景: アフリカの保健問題 — 情報の欠如

実情把握の困難性

どのような疾病に罹患し、どのような原因で死亡しているのか？
正確に把握されていない。

保健に関する施策の決定に支障を来している

情報収集機能強化の必要性(洞爺湖サミット)

保健システム強化には、保健情報収集の強化が必須

アフリカでは、「顧みられない熱帯病」が猛威をふるっている

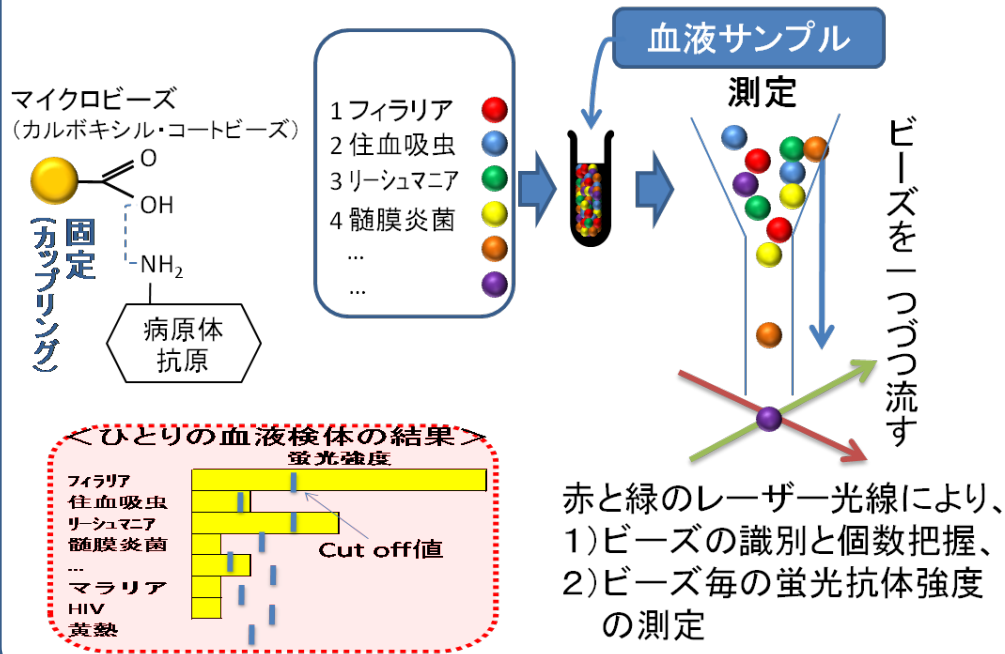
「顧みられない熱帯病」に関する情報収集の整備が必要

複数の熱帯感染症を一度に診断できる技術開発が望まれている

Multiplex法の応用

※顧みられない熱帯病: 貧困や社会の主流から取り残された地域のみに見られ、多くの地域では見られなくなった故に「顧みられない」熱帯病と呼ばれる: 英語では、neglected Tropical diseasesという。

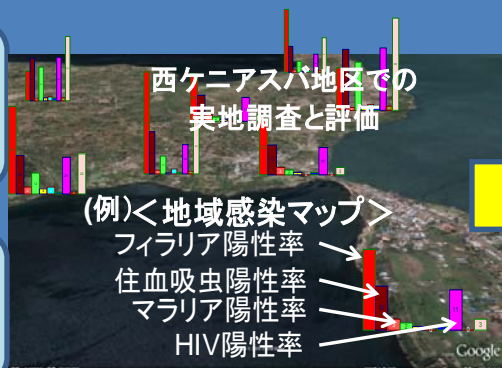
Multiplex法を応用した抗体測定(血清診断)



3年間の目標

熱帯感染症一括診断法の
プロトタイプ開発完成

西ケニアスバ地区での
実地調査と評価



達成目標からの発展

新しい技術を活用した日本のイニシアティブ
による感染症対策・研究の展開へ

- 広域感染症サーベイランスによる保健政策・評価への反映
- 個体レベルでの多重感染把握の新たな研究へ